

(A-3) トビウオ班

大学の学修環境向上に向けた情報活用と意識改革

■課題認識

我々の班では、身近な問題点として、学生の要望に対して大学側が応えていない、教員や職員の業務範囲が縦割りである、教職員間や学生とのコミュニケーションが不足している等が挙げられた。これら身近な問題点の背後にある、大学全体としての課題を考えた時、学修環境の更なる向上や、大学にかかわる人の意識改革が必要であるという意見が挙げられたことから、今回のテーマを設定した。本テーマの背景にある更なる課題を掘り下げた結果、大学生の就職率低下に見られるような、大学が社会の求める人材を育成できていないという課題が挙げられた。

■討議内容

まず、社会が求めている能力とは何かを考えた。これは、研修の講義中で中央教育審議会の「学士力」が例えばそれにあたるという意見があった。では、社会が求める能力を伸ばすにはどうしたらよいか。これには、一仮説として、学生の大学に対する満足度を高めることがそれにあたるのではという意見があった。大学に対する満足度が高い学生は、意欲も高く、貪欲に様々な学ぶ結果として、能力を身につけるのではないかと考えたからである。議論を進める中には、評価指標として、何をもって満足度が高まったとするのかという意見が出た。これについては、学生側からの声(大学生活が充実・楽しいものか、希望する進路に進めたか、やりたい勉強ができたか、自分が成長できたか等)や、社会側からの声(大学出身者が意欲的に仕事をしているか、結果を出しているか、活躍しているか等)を集めることにより、評価できるのではという意見があった。

次に、大学として満足度を高めるための取り組みを討議した結果、下記3点を設定した。

- ① 大学の学修や様々な活動に積極的に参加してもらう
- ② それにあたっての情報提供を活発に行う推進をする
- ③ 学生の学修状況を把握し、問題があれば、解決支援できる環境を作る

■提案内容

満足度を高めるための取り組みの具体的な解決案として下記3点を提案する。

第一は、少人数クラスを増設することである。これには二つ利点がある。一つは、少人数であると教員の目が学生に届きやすくなることである。教員が、学生の学修状況や不安・悩みなどの相談に応じられ、必要に応じ職員と連携して相互に問題解決を図ることができる。これにより、学生を個々にフォローすることが可能になると考えられる。二つ目として、学生が授業に積極的に参加するようになることがある。少人数クラスでは学生の顔を覚えやすく、学生間で代わりに出欠席の返事ができず、本人が授業に出席せざるを得ない。学生にとっては、最初は授業の出席を義務と感ずることがあるかもしれないが、徐々に授業への出席意欲を高める期待もできる。しかしこの案には、教室不足や人員不足という課題がある。その解決策として、職員も教師（教育者）としての意識を持ち学生と接してい

くことや、教員のみならず職員の「担任制」導入を検討してはどうかという意見があった。

第二は、学生からの要望を広く情報共有し、解決を図ることである。学生の要望に速やかに対応するため、学生からの問い合わせを縦割りで対応せず、どの部署でも受付できるようにし、部課室の垣根を越えた対応が求められる。具体的な対応方法として、例えば、学生からの要望を共有し、他部署でも閲覧できるようにすることや、職員全員が閲覧できる掲示板を有効的に活用し、学生からの相談内容を記録、過去の相談内容を他関係者が参考にできるような情報共有の仕組みを構築することが挙げられる。そして、要望に対応する部署が主体的に解決を図るという意識が重要となる。しかしこの案は、教職員が要望を共有し、主体的に取り組む意識を上手く醸成できるかが課題となる。その解決策としては、教職員合同の研修会開催などを通じて共通認識を深め、一人一人の意識改革を図ってほしいという意見もあった。

第三は、学生向けの掲示板（情報ポータル）を作成し、総合的な情報を学生に提供することである。大学が学生に迅速で正確な情報を提供することは、学生がより良い学生生活をおくる上で重要なことである。学生向けの掲示板（情報ポータル）では、授業情報、学生生活情報、就職情報など総合的に掲載し、常に学生に見てもらうことが重要である。学内における情報ポータルの周知および利用促進には、ゼミ、サークル、部活などの大学における小組織を利用すると効果的である。また、ゼミ、サークル、部活などにはホームページリンクを設け、リンク先の情報を継続的更新、情報発信をしてもらうことも効果的である。利用者の利便のために、必要な情報を選択し、メール配信できるようにする案もあった。しかし本案は、構築コストを如何にして限られた大学予算を獲得していくのか、縦割り組織の大学でどのように各関連部署と連携を図っていくかが課題として挙げられた。

■結論

大学の学修環境向上に向けた情報活用と意識改革には、人と情報システムの持っている力を融合させることが求められる。新しい情報システムを取り入れてシステムに任せきりにするのではなく、そこに人の力を加え、人の力とシステムの力、お互いが足りない箇所を補い合うことで、その性能が発揮されるものである。

また、班メンバーからは、学生や保護者からの問い合わせを縦割りの組織で対応している結果、時間がかかるという問題点が多く挙げられた。「以前もこうだったから」と言い訳をすることなく、困難な問題にも立ち向かう向上心が重要ではないか。教員、職員、部署といった垣根を越え、全学をあげて協業し、大学が抱える諸問題の解決に取り組むという意識改革が必要である。